

病害虫防除技術情報第 15 号

平成 24 年 11 月 5 日

三重県病害虫防除所

ストロビルリン系殺菌剤(QoI 剤)を適切に使用して イネいもち病耐性菌の発生を未然に防ぎましょう

1. 対象作物:水稲

2. 対象病害虫名:イネいもち病

3. 背景

1) 本年、他県において、ストロビルリン系殺菌剤(QoI 剤。表 1 参照)耐性イネいもち病菌(以下、耐性菌)の発生が確認されました。

2) 三重県内では現在のところ、耐性菌の発生は確認されていません。

3) ストロビルリン剤はイネいもち病に対する防除効果が高く、優れた薬剤であり、三重県内でも広い面積で使用されています。しかしストロビルリン剤は耐性菌の発生リスクが高いとされています。そこで以下の注意点に沿って、適切に使用することにより、優れた効果を持続させるよう努めましょう。

表1 イネいもち病を対象としたストロビルリン系殺菌剤 ※最大年1回の使用としましょう

系統番号	耐性菌の発生リスク	有効成分名	商品名の例
殺菌剤 11	高	アゾキシストロビン	アミスター
		オリサストロビン	嵐
		メミノストロビン	イモチエース、イモチミン、オリブライト、オリザトップ

4. イネいもち病防除におけるストロビルリン剤耐性菌の発生を未然に防ぐための注意点

1) ストロビルリン剤の使用は最大年 1 回までとし、採種圃場での使用禁止を再度徹底しましょう。

2) 長期持続型ストロビルリン剤の育苗箱処理は、耐性菌の選択圧を高める要因の一つとして考えられているため、できる限り、作用機構の異なる薬剤とのローテーションで使用するか、耐性菌の発生リスクの低い薬剤を選択しましょう(表 2)。

3) ストロビルリン剤を本田で散布する場合、葉いもちに対しては初発前あるいは発生初期に、穂いもちに対しては薬剤の使用適期に散布しましょう。

4) 健全種子の使用、塩水選や種子消毒の徹底、圃場衛生管理など、いもち病防除の基本となる防除対策を徹底しましょう。

5) 種子は、できるだけ耐性菌の確認されていない県(三重県では確認されていません)で生産されたものを使用しましょう。やむを得ず、耐性菌の発生が確認された県で生産された種子を用いるときは、ストロビルリン剤と作用機構の異なる薬剤で防除してください(表 2)。

6) 以上の取り組みを地域一帯となって実施しましょう。

7) ストロビルリン剤を使用したにもかかわらず、効果が著しく低かった場合は、病害虫防除所、農業研究所、農業改良普及センターや、関係団体へご連絡下さい。

表2 イネいもち病を対象としたストロビルリン剤以外の農薬(H24年版三重県病害虫防除の手引きより抜粋)

系統番号	耐性菌の発生リスク	有効成分名	商品名の例
殺菌剤P (抵抗性誘導剤)	低	プロベナゾール	オリゼメート、Dr.オリゼ、ビルダー、ジャッジ
		チアジニル	ブイゲット、アブライ
		イソチアニル	ルーチン、スタウト、ツインターボ
殺菌剤16.1	低	トリシクラゾール	ビーム、ラテラ
		ピロキロン	コラトップ
		フサライド	ラブサイド
殺菌剤29	低	フェリムゾン	(フサライドとの混合剤)ブラシン、 (トリシクラゾールとの混合剤)ノンプラス
殺菌剤6	中	IBP	キタジンP
		イソプロチオラン	フジワン、 (ピロキロンとの混合剤)ピカピカ、フジトップ
殺菌剤24	中～高	カスガマイシン	カスミン、 (トリシクラゾールとの混合剤)ゲットワンエース、ダブルカット
殺菌剤1	高	チオファネートメチル	トップジンM
		ベノミル	ベンレート

参考:系統別耐性菌発生リスク(2012年8月22日現在)日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会
 系統番号は、薬剤の作用機構の種類ごとにグループ化したものです。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。